

(様式1)

自 己 評 価 表

愛媛県立土居高等学校
学校番号(3)

教育方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	「学校力」の強化と「人間力」の育成 えがお まなびや ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着と進路実現	「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。	A	アンケートでは生徒の84%が「分かる授業」になるよう教員が工夫していると感じている。	基礎学力の定着という点で課題が残っているため、電子黒板等の教育機器を活用したり、アクティブ・ラーニングの手法をさらに研究したりして生徒への興味付けをしていきたい。
		学習習慣の定着を目指し、学年＋1時間以上の1日平均家庭学習時間を確保させる指導を行う。	C	1学年が97.2分、2学年が88.0分、3学年が101.1分で全学年で目標達成ができなかった。全校総平均についても前年度とほぼ同じであった。	学習習慣が身に付いていない生徒が多いため、適切な課題を出したり、家庭学習時間調査票を活用したりして家庭学習習慣を身に付けさせる工夫をしていきたい。
		国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。	A	国立大学、私立大学のAO入試、高等看護学校の公募推薦に合格者を出すことができた。進学希望者の進学決定率は100%であった。	進路課、学年、教科の連携を密にして、個別指導を更に充実させていきたい。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。	A	事業所、公務員ともに希望者全員が内定・合格することができた。	今後、就職環境が厳しくなることを見据えて、基礎学力向上、出席率向上を図る。
生徒指導・安全教育	基本的生活習慣の確立と安全意識の育成	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率97%以上を維持する。	A	昨年1月末現在で97.3%であったが、今年度は98.5%と出席率が向上している。過去6年間でも最も良好な数値であった。	学年またはクラス単位で、「健康観察表」を効果的に活用して日頃からの健康管理に努める。
		身だしなみ指導において、年間合格率85%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。	A	年間合格率は94%で、昨年の91%から3ポイント向上し過去6年間で最も良好な数値であった。校則に反する指導件数も昨年度から大幅に改善した。	学年集会、全校集会など様々な場面で繰り返し指導を行い成果が出た。また、ホームルームでもきめ細やかな指導が行われている。
		コミュニケーション能力の向上に向け、あいさつのできる生徒100%を目指す。	B	授業、職員室の出入り、教職員、来校者へのあいさつはほぼ達成できている。生徒同士については79%の達成状況で、昨年度から10ポイント低下した。	生徒会がリードして学校行事や特別活動が活発となっているが、生徒相互の関係を深め、生徒間のあいさつを向上させる工夫をしていきたい。
		交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。	A	登下校指導、自転車点検指導やホームルーム活動における交通安全教育の実施等、交通事故防止に向けた取組を17回行った。	交通事故防止に向けた取組を継続実施していくとともに、ヘルメットの着用の一層の徹底を図り、交通マナーアップに向けた啓発活動に努めたい。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
豊かな人間性・個性の伸長	豊かな人間性・思いやりの心の育成と個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの図書貸出冊数を平均3冊以上にする。	D	朝読書は定着しつつあるが、図書突合作業が完了し、年度当初から通常の図書館運営に戻ったが、図書貸出冊数は生徒一人当たり貸出冊数1.6冊と伸びなかった。	ビブリオバトル等の行事を企画する等図書館の魅力を伝えるような働きかけを行いたい。
		充実した学校生活を送らせるために、部活動加入率を90%以上とし、県総体出場生徒数40名以上を目指す。	B	部活動加入率は91.8%で目標を達成することができた。県総体出場生徒数は38名であったが、陸上競技の女子400mHでインターハイに出場した。また、情報科学部が観光甲子園でグランプリに輝いた。	運動部、文化部とも顕著な活躍があった。一方、部員が不足して大会の出場も危ぶまれる部活動もあるため、部の編成について協議していききたい。
		各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。	C	昨年度は国体関係でのボランティアに参加した生徒が多かったが、それを除くと昨年度とほぼ変わらなかった。	ボランティアに対する生徒の意識は高いので、外部機関との連携を図り、積極的に案内したい。
		相手を尊重する、いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行う。	A	人権教育課長の講話、講演会、HR活動等を通して、自己肯定感を育む取組をした。	より一層自己肯定感を育めるように、講話や取組の内容等を工夫する。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携と魅力ある学校づくり	P T A 総会（公開授業、講演会を含む）への出席率30%以上を目指す。	C	授業参観も含めて24%の出席状況であった。まだまだ低い数値であるが、3年間で初めて20%を超えた。	授業参観を2時間にしたり、P T A 役員からの呼びかけに力を入れたりして数値が向上した。次年度に活かしたい。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間15日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る。	A	保護者、地域に対し授業公開(24日)を行い、生徒の活動を参観していただいた。	社会に開かれた教育課程を実現するために、学校を保護者・地域に開放し、学校教育への理解と協力を図りたい。
		学校公式ホームページの内容を毎日更新するなど、学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信する。	A	ログ数を開校日で割った数字が1.7で、開校日以外も内容を更新する等ホームページを活用して情報発信ができた。	コースの説明や学校の教育内容等中学生にも分かりやすく提示する工夫が必要である。5月にホームページをリニューアルしたが、今後とも改良していききたい。
		地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上確保するなど、連携に努める。	A	地元保育園・小学校・中学校・老人保健施設等との交流事業を14回行った。	地域の協力もあり活発に交流ができている。特に農場を活用した交流会が喜ばれており、今後とも大切にしていきたい。
現職教育	教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が3年間に1回は教科の研究授業を実施する。	A	予定通りに研究授業を実施することができた。ワークシート方式(マトリックス法)を用いて深い授業研究を行った。	各教員が3年間に1回は研究授業を実施し、教職員の授業力の向上を図りたい。
		電子黒板を活用した授業を年1回以上実施する等ICTを活用した授業研究を行う。	C	ICTを活用して授業の研究を行った教員が約7割、電子黒板を活用した教員の割合が約3割であった。	年代を問わず、新しい機器に対応できていない教員に対して働きかけを行っていききたい。一度使用すると複数回使用するので、研修会等を実施していききたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。